

## 端午節の日に

6月7日 金曜 晴れなので日中は高温に。この日は、祝日の一つ、端午節の休日だった。午前10時に、新しい中国語のチューター劉安奇さんと勉強会。

午後はお目当ての「京劇」を見られるのではと、都心の中山広場近く、宏済大舞台へ出かける。しかし演目はすでに始まっており、またしても見るチャンスを逃した。出直すことにし、都心をバスで奧利比克(オリンピック)広場まで移動。広場の西南側に城市音楽館を見つけ、中に入って見た。明日の金有美さんの演奏会の会場がここだった。今の建物になって日が浅いのか、建物は新しく明るい内装だった。奥に立派なオルガンが安置してあるその手前に、何やらヤマハの看板が。写真の人は浜松の日本楽器製造の創業者、山葉さんらしい。1902年製造のそのオルガンは、ここ大連に戦前設けられたヤマハ楽器店で売られたもので、後に河北省の楽器店が購入。この城市音楽館が開設された時に、寄贈されて戻って来たとか。

その他、この建物には、中国の民族楽器、例えば琵琶の仲間とか、編鐘と呼ばれる青銅製の打楽器のコレクションが並べて展示してあったり、ヤマハ・ピアノの体験館が地階のスペースを幅広くとっていたり、なかなか楽しい空間になっていた。その地階中央の吹き抜けスペースでは、端午節に合わせて若者がモダンな唐装をまとって、この祝日を祝っていた。因みに、唐装とは伝統的な中国服を身にまとうことを言う。



端午節の唐装のイベント。言わば、現代風なコスプレの催しと言ったところか

端午節が休日となったのは 2002 年で、まだ日の浅いお祝いだそうで、おかげで伝統に縛られることもなく、こうした若者主体のイベントが開催可能なのだろうと思った。

日本には、5 月 5 日に端午の節句があるが、中国では旧暦の 5 月 5 日に祝日が置かれている。そうすると毎年日にちが変わるようで、今年 2021 年は 6 月 14 日になるそうだ。とは言え、日本の節句も中国起源に違いなく、粽(ちまき)を食べる習慣は、日本以上にしっかりと残っている。帰宅時に蘭玉街の店先に下のような粽とゆで卵を売っている姿を見た。この卵の方は、我々に縁がないが、中にはこの卵に色付けしたりする習わしもあるそうだ。しかし、そうするとキリスト教のイースターのお祝いにそっくりになる。偶然とは言え、面白い。

端午節のもう一つ大事なイベントは、龍船と呼ばれるボート競走だが、こちらの方は港町大連でも、いまだ復活していないよう。この辺の話は、中国語の授業で劉先生からもいろいろと話を伺ったことを思い出した。



学校付近の蘭玉街の飲食店の店頭で写す。